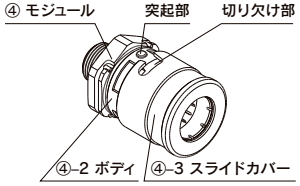
TC1-B型 TC1-S型 トヨタッチ®取扱説明書

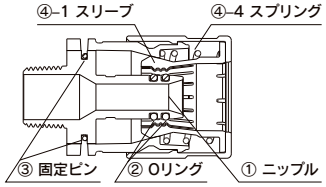
ご使用前に必ずお読みください。　⚠警告　・・・死亡または重傷を負う可能性がある状態

トヨタッチを、「正しくお使いいただくため」の説明です。ホース単品同様、ご使用にあたっては制限がありますので下記の注意事項を必ずお守りください。万一、お守りいただけない場合は、負傷・物的損害の発生する恐れがあります。

トヨタッチは、気密性を確保するため、加圧時にホース位置がわずかに変化する構造です。これは製品の正常な動作であり、性能や安全性に問題はありません。

□ 各部名称(材質)





材　質
① ニップル:TC1–B型…真鍮(RoHS適合)
　　:TC1–S型…SUS304
② Oリング :NBR(グリース塗布)
③ 固定ピン:SUS304–WPB
④ モジュール
　└④–1スリーブ:ポリアセタール(POM)
　└④–2ボディ　:ナイロン12(PA12)
　└④–3スライドカバー:真鍮(RoHS適合)
　└④–4スプリング　:SUS304–WPB

⚠ 施工上の注意

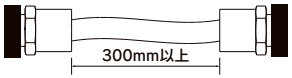
1. ⚠警告 下記の用途での配管には使用しないでください。継手破損、ホース破裂、ホース抜けが発生する恐れがあります。
   ・電磁弁配管等の配管内に衝撃圧がかかる用途　・常にホースに引張の応力がかかる用途
   ・継手部に振動及び衝撃が加わる用途　・配管が可動する用途
   ・最高使用温度を超える用途　・熱源の近くなど、耐熱温度を超える温度がかかる用途
2. ホースカットの際は、ホース端面が垂直になるようにカットしてください。ホース抜けや流体漏れの恐れがあります。
3. 施工時には、継手の鋭利な部分でケガをしないようにご注意ください。
4. 本製品を落下させるなど衝撃を与えないでください。破損または変形等が認められた場合は、ホース抜けや漏れなどが発生する恐れがあるため、使用を中止してください。
5. 継手を機器にねじ込む際は、六角部をモンキーレンチ（モーターレンチ）ですき間（ガタつき）なく固定して締め付けてください。
   パイプレンチは使用しないでください。また、六角部以外に工具を掛けないでください。継手本体を破損する恐れがあります。
   過度な締め付けやレンチのガタつきは、継手破損や工具の滑りによるケガの原因となります。
6. ホース端面に糸屑や鋼線が出ている場合は、ニッパー等で除去してください。ホース屑、糸屑、鋼線がホース内に入らないように注意してください。Oリングを破損させたり、異物が付着し、流体漏れの原因となることがあります。
7. 施工後に、継手部からのホース抜けや漏れが生じていないことを確認してからご使用ください。
8. 継手付近にホースの曲げ応力がかからないよう、ホースの最小曲げ半径を守り、ホース長さを確保してください。
9. 加圧時にホース位置が変化し、配管全長がわずかに変化する場合があります。
   機器との干渉やホース折れがないか事前にご確認ください。以下のような配管レイアウトでは使用できない場合があります。

【NG配管例】

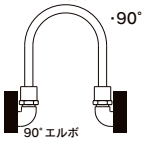


・300mm未満のストレート配管
・ホース長さに余裕がなく張力がかかる配管

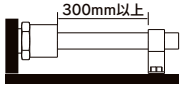
【対策後の配管例】



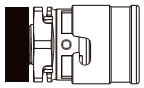
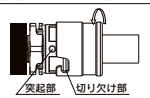
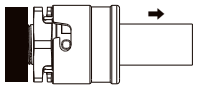
・300mm以上のストレート配管
・適度にホース長さにゆとりを持たせた配管



・ホースを固定(クランプ)する配管の場合は、下記にご注意ください。
　・一度加圧しホース位置が変化した後にクランプしてください。
　・継手から300mm以上のところでクランプしてください。



トヨタッチの使用方法

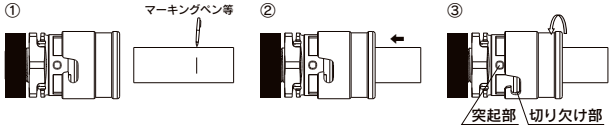
ホース接続前の状態	ホース接続状態『スライドカバーロック』	ホース引抜状態
		
ホースを引き抜いた後は、この状態に戻してください。	ホース接続後、スライドカバーを回転し、「切り欠け部」と「ボディの突起部」をずらしてください。 スライドカバーが押し込めない状態になり、使用中の誤動作による抜け漏れを防止します。	スライドカバーの「切り欠け部」を「ボディの突起部」に沿って押し込み時計回りに回転し、引っ掛けてください。 ホースを引き抜いた後は、ホース接続前の状態にもどしてください。

トヨタッチの取付手順

※取り付け方法は各ホース共通です。

① あらかじめ継手本体を設備・機械に取り付けます。
　※下表の「適正なホース差し込み量」に従ってホースに線を付けることで、適正なホース差し込みが行えます。
② 端面を垂直に切断したホースをニップルに差し込みます。
　ニップルの根本までホースが挿入されていることを確認してください。
③ ホース挿入後、スライドカバーを回転させ、スライドカバーをロックしてください。

適正なホース差し込み量		
品番		mm
TC1-B15	TC1-S15	46

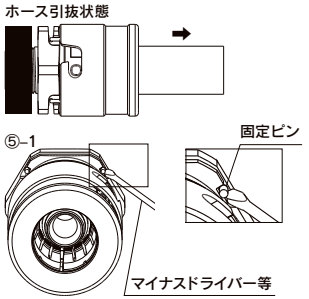


取付動画はこちら!

トヨタッチの取外手順

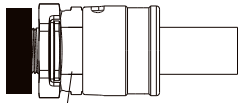
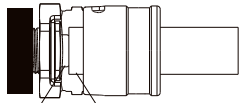
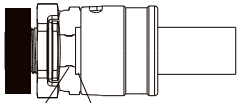
※取り外し方法は各ホース共通です。

① 配管内に、残圧が無いことを確認してください。
② スライドカバーを押し込み、『ホース引抜状態』にしてください。
③ ホースを引き抜いて、取り外してください。
　※スライドカバーを押し込みながら、同時にホースを引き抜くことも可能です。
④『ホース接続前の状態』に戻してください。
⑤ ⚠注意 使用時の流体、使用圧力、使用温度、使用期間などによって、ホース硬化やホース外径が大きくなった場合、スライドカバーの押し込みが固くなる場合があります。その場合は、下記の手順でニップルとモジュールを分解してホースを取り外してください。
⑤–1 図のようにマイナスドライバー等の工具を差し込み、モジュールの固定ピン（2箇所）を取り外します。
⑤–2 ニップルからモジュールとホースを取り外し、モジュールからホースを引き抜いてください。
⚠注意 分解した継手は再使用しないでください。



⚠ 使用時の注意

1. 本製品は、トヨックスホース専用のホース継手です。他社ホース及び適合ホース以外に接続された場合は、性能を十分に発揮、維持できない場合がありますので何ら保証はいたしません。
   ※適合ホースは継手によって異なります。カタログまたはホームページでご確認ください。
2. 適合ホースの使用温度範囲内及び使用圧力範囲内でご使用ください。
3. 継手の部品材料に適合しない薬品が付着しないようご注意ください。部品の劣化、破損および漏れの原因となるおそれがあります。
4. ご使用期間中は、継手部からのホース抜けや流体漏れが発生していないか定期点検を実施してください。
5. 使用中にニップルの凹溝部が全て見える位置までホースが移動している場合は、過剰な圧力が加わっている、または継手の耐圧性能が低下している可能性があります。直ちに使用を中止し、使用条件を確認してください。
   使用条件に問題がない場合はホースと継手を新品に交換してください。

使用前	使用中（正常）	使用中（異常）
ニップルの根本までホースが挿入されている状態	ニップルの一部が見える状態	ニップルの凹溝部が全て見える状態
		

6. ⚠警告 流体が流れている状態および加圧状態では、ホースの着脱・継手の組立・分解作業はしないでください。
   必ず残圧がないことを確認し、ホース内の流体を抜いてから作業してください。
7. ホースや継手の内面以外を流体に接触させないようにしてください。ホース補強層に流体が浸透したり、継手部に流体が残り、雑菌の繁殖（付着）、ホースの劣化が発生する恐れがあります。
   また、外面に付着したほこりやホースの断片（補強材）、印字インクが混入する恐れがあります。
8. ⚠警告 ネジ部に段差がありますので、サニタリー配管（食品等）には使用しないでください。
   また、Oリングは接液し、液だまりする可能性があります。
9. 屋外や直射日光が当たる環境で使用しないでください。樹脂が劣化し強度低下や寿命が短くなる恐れがあります。
10. 直射日光の当たらない、温度及び湿度の低いところで保管してください。また、継手内に異物や、ホコリが入らないように保管してください。

⚠ 継手の再利用とホース交換に関する注意

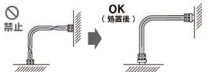
⚠注意 日々の分解洗浄用継手ではありません。
⚠警告 ホース交換・継手の分解作業は、継手が常温まで冷えた状態で作業してください。火傷や継手を痛める恐れがあります。

1. 再使用時にホース挿入しにくい場合やOリングの潤滑剤（グリース）が乾いている場合は、指定のグリースを塗布してください。
   ※トヨタッチ指定グリース『Shin-Etsu Silicone グリース　G-501』
2. 再使用時には、継手の部品に損傷、変形、摩耗などの異常がないことを確認してください。
   継手の部品に異常がみられる場合は、直ちに継手を新品に交換してください。
3. 再使用時には、新品のホースを使用するか、ホースの変形した部分を切断して使用してください。
4. ホース交換時には、必ず継手表面やOリングに付着した汚れを取り除いてください。流体漏れやホース抜け発生の恐れがあります。
5. ホース挿入部やOリング溝に刃物等で傷をつけないでください。流体漏れが発生する恐れがあります。
6. 必ずニップルホース挿入部にOリングを取り付けてご使用ください。
7. 継手をハンマー等で叩かないでください。

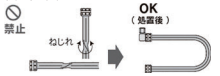
⚠ 警告

1. 本製品の流路（流体接触面）の材質は、TC1-B型は真鍮（OリングNBR）、TC1-S型はSUS304（OリングNBR）を使用しています。
   流体の種類によっては腐食やOリングの劣化により、流体漏れが生じる場合があります。ご使用前にご確認（カタログ、ホームページ記載の耐薬品データ参照）または、フリーダイヤルにてお問い合わせください。継手外面への接触流体に関しても同様にご確認ください。
2. ホースをねじった状態で配管・使用しないでください。ねじれがかかった場合、ホースの内部構造が変形し、「 破裂 」に至り、危険です。次の例を参考にして、適切な処置を講じてください。

例1）配管時のホースのねじれ



例2）曲げたときのねじれ



□ お問い合わせ・ご相談は
フリーダイヤル 0120-52-3132 お客様相談室まで

Connect to the Future TOYOX®

株式会社トヨックス
本社 / 黒部　サービスセンター / 東京・名古屋・大阪

ISO 9001 / 14001 認証取得

○ 改良のため予告なく仕様変更することがあります。
○ この印刷は環境にやさしい植物油インキを使用しています。

26.08.05